



「木の葉ブログ」(ビジネススキル強化お役立て情報)

「非言語コミュニケーション」の話題から(2015年4月26日投稿)

パリで学んだ“暮らしの質”を高める秘訣 10着のワードローブ(1)

今回紹介する本『フランス人は10着しか服を持たない』は、著者が学生時代にホームステイで学んだ「素敵なパリの暮らしの秘訣」を紹介したライフスタイルブログ(2008年よりスタートし大反響を呼ぶ)を纏めたもの。アメリカの物質主義に踊らされている生活に異を唱え、美しく心豊かな暮らしやシックなおしゃれを提案している。

表紙カバーに書かれた素敵なメッセージ

間食はせず、食事を存分に楽しむ。／上質な物を少しだけ持ち、大切に使う。／日常のなかに、ささやかな喜びを見つける。

典型的なカリフォルニアガールだった著者は、フランス貴族の家にホームステイすることになる。その家を取り仕切るマダム・シックから学んだのは、毎日を“特別な日”のように生きること。

日常が突然、特別なものに見えてくる(本書の書き出し)

リビングの布張りのアームチェアで、ゆったりとくつろぎのひとつとき。刻みタバコの香りがふんわりと漂っている。天井まで届く窓からは、パリの街のやさしい夜風がそっと流れ込み、ゴブラン織りの美しいカーテンは優雅なひだを描いて、たっぷりと床に垂れている。

ヴィンテージのレコードプレーヤーから聞こえてくるのは、クラシック音楽の調べ。食器はもうほとんど下げられ、ダイニングテーブルの上に残っているのは、食後のコーヒーのカップとパンくずだけ——“フロマージュの王様”カマンベールチーズを載せてみんなでぺろりと平らげた、焼きたてのバゲットのかげら。

ムッシュ・シックは静かにパイプをくゆらせている。音楽に合わせてゆっくりと首を振っているその様子は、まるでオーケストラの指揮者みたい。息子さんはポートワインのグラスを片手に、窓辺に佇んでいる。マダム・シックはキッチンから戻ってくると、シルクのブラウスとAラインのスカートに覆っていたエプロンを外す。

満足そうにほほえむマダム。わたし(著者)も手伝って、テーブル上のコーヒーカップをふたりに片付ける。こうして今日も、パリで満ち足りた一日が過ぎていく——人びとが生き生きと素敵に暮らしているこの街で。

●この文章の後に、本書タイトルとなったエピソードが綴られますのでお楽しみに。なお、ワードローブ(wardrobe)はデジタル大辞泉に「衣装戸棚」「洋服だんす」「個人の持ち衣装」とありますが、本文では「個人の持ち衣装」の意で使われています。

参考文献：『フランス人は10着しか服を持たない』(ジェニファー・L・スコット著/大和書房)